



松くい虫被害地の再生（前橋市）

○参考（作業状況）



5 成果

- ・ 最終年度に向けた執行計画の見直しを行ったことで、区域調査における整備箇所の掘り起こしや目標達成に向けた着実な事業執行に繋がりました。
- ・ 平成29年度内に、平成28年度繰越予算分として416ha、平成29年度予算分として362ha、計778haの森林整備を実施しました。
 - ・ 平成29年度内に、最終年度に向けた森林整備に係る区域調査をほぼ完了し、約4500haの協定書を取得でき、森林整備の準備が整いました。

6 課題・方向性

- ・ 調査対象箇所が小規模分散化してきており、調査対象となる森林所有者数も多くなっていることから、区域調査においては森林所有者や境界の特定、実施計画書調査においては、測量に多大な時間がかかっており、早期の森林整備の発注に支障をきたしています。

承諾の得られた森林所有者の周辺の森林所有者にも事業の説明を行うなど、集約化の推進を図ります。
- ・ 不在村森林所有者の増加等により、森林境界や森林所有者の特定が困難な状況にあります。引き続き市町村の個人情報保護条例及び林業担当部署と連携・協力し、また、今後作成される林地台帳を活用し、森林境界と森林所有者の明確化に取り組んでいきます。
- ・ 奥山での作業箇所や小規模で分散した作業箇所が多く、作業効率が向上しないため、これまで以上に労働力が必要となってくることから、受注者に対し、新規就労者の雇用促進や下請として協力会社を活用するなどの指導を行っていきます。
- ・ 松くい虫被害地の再生においては、植栽後多くの箇所で野生獣による被害が発生していることから、野生獣害防止のための施設設置、忌避剤の散布などの対策が必要となっています。

また、過密林を間伐することにより、野生獣が整備後の森林に進入しやすくなり、地域によっては皮剥等の被害が発生していることから、皮剥を防止するための資材等を残存木に設置するなどの対策が必要となっています。
- ・ 手入れされず放置されたヒノキ林では、強度間伐を行っても残存木に枝が多く残っているため、林内照度の改善に繋がりにくくなっていることから、枝払い等のより効果の高い整備を行っていく必要があります。

7 実施状況の評価（評価者：県）

- 平成29年度予算での森林整備目標890haに対し、約778ha（年度内完成362ha、繰越416ha（稼働中））の森林整備を実施しました。
区域調査・実施計画調査を先行して実施したために、目標達成には至りませんでした
が、繰り越しの減少に繋がる結果となりました。
- 担当職員と森林組合の担当者が連携・協力したことにより、最終年度に向けた森林整備に係る区域調査がほぼ完了しました。

8 平成30年度の目標面積

- 水源地域等の森林整備事業 年度別実績及び目標面積等について

事業名	区分	5カ年計画	実績					平成30年度 目標面積		
			平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	計	29 繰越	30 現年	計
			単位(ha)							
条件不利 地森林整 備	区域調査	—	1,215	1,107	728	568	3,618	74	130	204
	実施計画調査	—	421	645	462	206	1,734	294	720	1,014
	森林整備	3,500	276	466	421	201	1,364	187	720	907
水源林 機能増進	区域調査	—	401	951	460	342	2,154	45	30	75
	実施計画調査	—	122	534	273	267	1,196	64	100	164
	森林整備	500	88	233	236	91	648	215	100	315
松くい虫 被害地 の再生	区域調査	—	162	105	232	14	512	0	20	20
	実施計画調査	—	36	13	42	60	151	9	40	49
	森林整備	200	11	31	44	70	156	14	40	54
合計	区域調査	—	1,777	2,163	1,420	924	6,284	119	180	299
	実施計画調査	—	578	1,192	777	534	3,081	367	860	1,227
	森林整備	4,200	375	730	701	362	2,168	416	860	1,276

- 平成30年度については、平成29年度繰越事業分の416haの森林整備を早期に完成させるとともに、全体計画である4,200haを見据えた上で、新たに、860haの森林整備面積を目標に、水源かん養機能などの公益的機能を高めるための森林づくりに取り組みます。

9 評価検証委員会の意見

